

### 3 整備要領

3-1

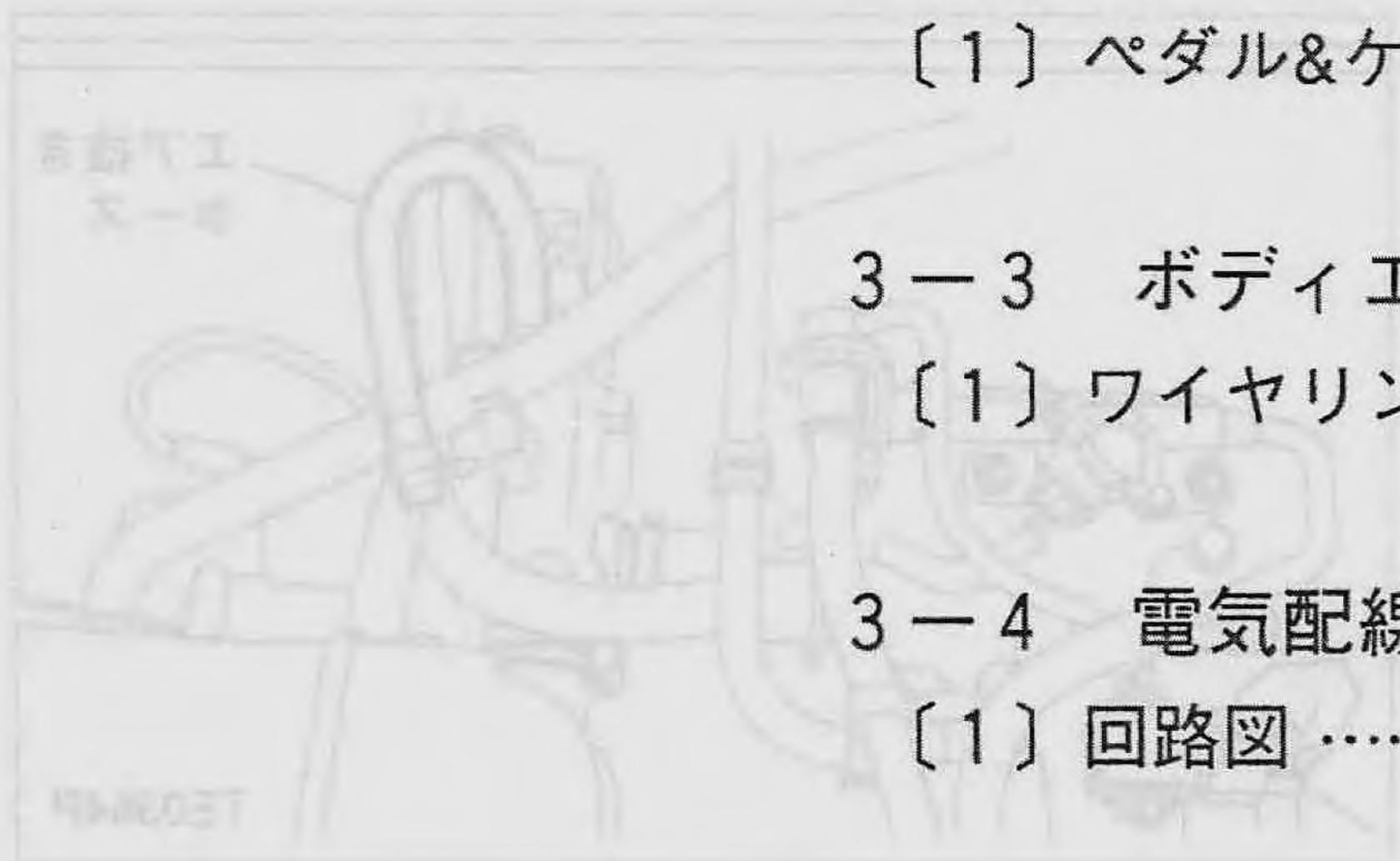
ムテスでせぐりーでぐぞぐエ (I)  
品動車載用鋼型

部 品	目 次	整 備 要 領	各 部 品
スーク用モードエ ホルマインイモード	3-1 エンジン ..... 3-2 〔1〕エンジンクーリングシステム ..... 3-2 〔2〕エアインテークシステム ..... 3-4	3-2 T2 書類	0000T000064

< (車M) 車上にせぐエ >

駆逐船壁

水賀室 (II)



3-2 シャシ ..... 3-5

〔1〕ペダル&ケーブルシステム ..... 3-5

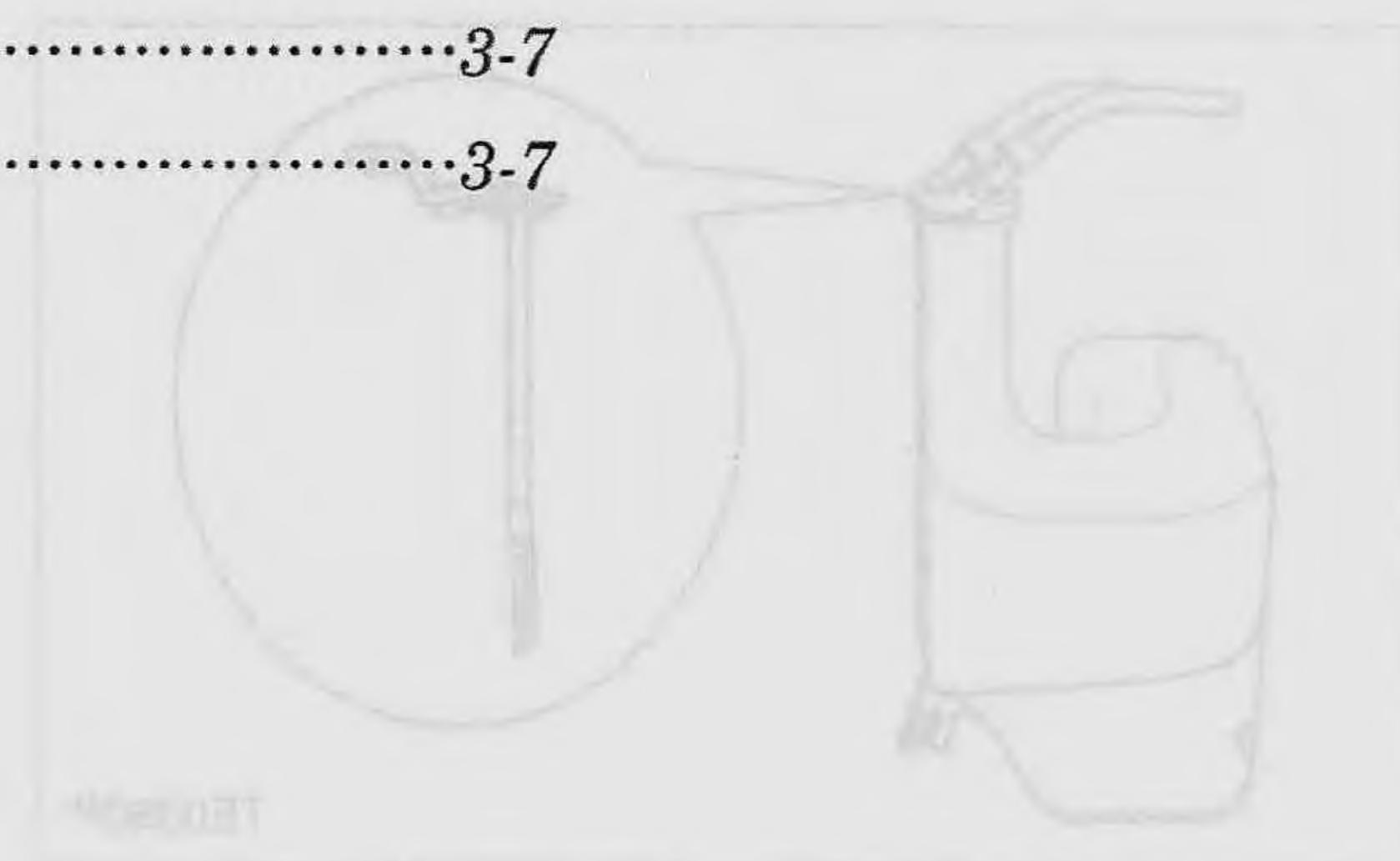
3-3 ボディエレクトリカル ..... 3-6

〔1〕ワイヤリングハーネス ..... 3-6

3-4 電気配線図集 ..... 3-7

〔1〕回路図 ..... 3-7

3



< (車M-GM) 車上にせぐエ >



モードコントローラーとモードセレクター、モードスイッチの接続状況

< 駆逐水筒 >

モードセレクターとモードスイッチ、モードコントローラーとの接続状況

モードセレクター (駆逐水筒モード) とモードスイッチ (モードコントローラー) の接続状況

モードコントローラーとモードセレクターとの接続状況

モードコントローラーとモードスイッチとの接続状況

モードセレクターとモードスイッチとの接続状況



モードセレクターとモードスイッチとの接続状況

モードコントローラーとモードセレクターとの接続状況

モードコントローラーとモードスイッチとの接続状況



## [1] エンジンクーリングシステム

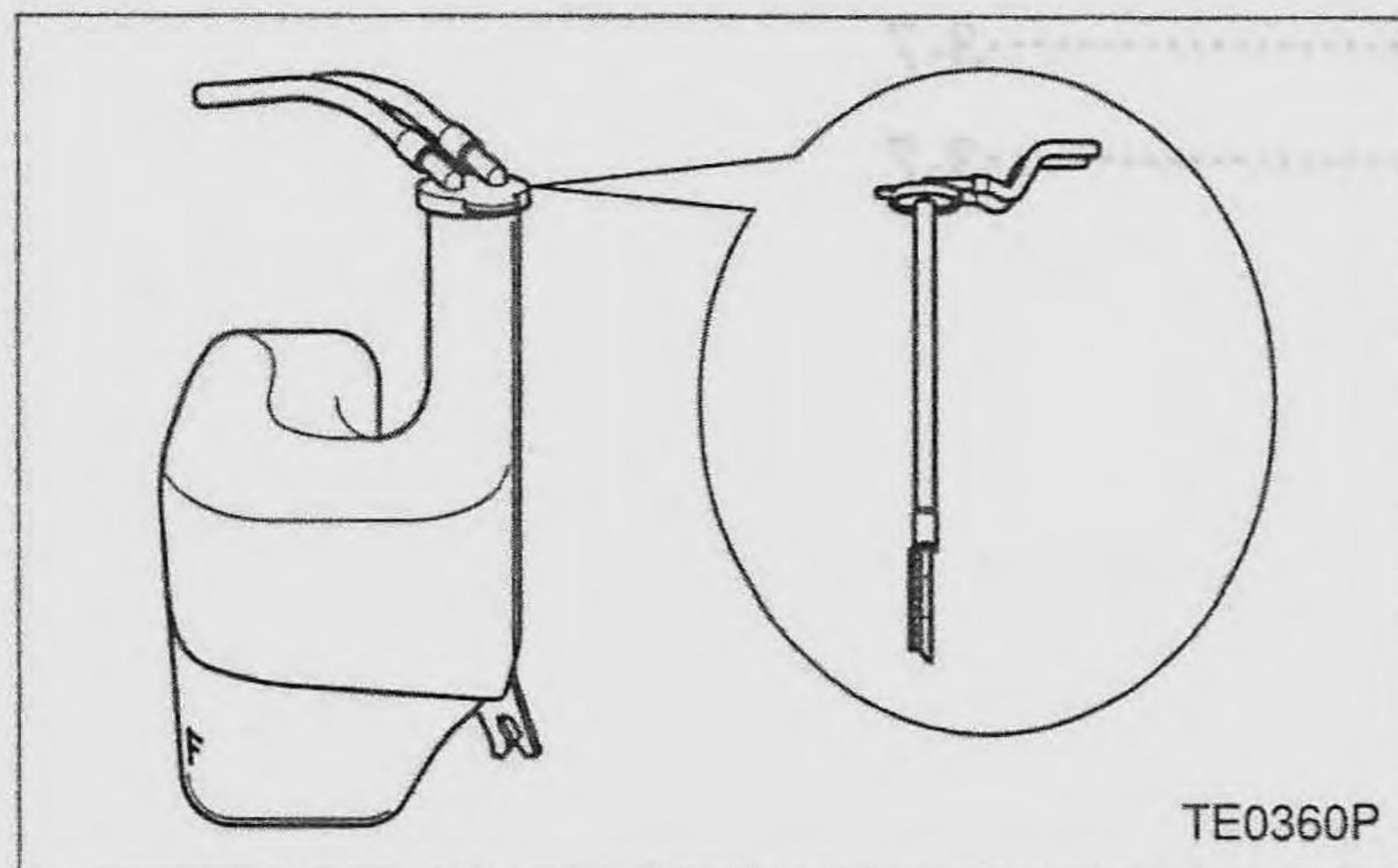
## 整備作業準備品

区分	工具番号	名 称	用 途
ST	45099TC000	スペシャルツールホース	エア抜き用ホース
その他	—	スバルクーラント	クーラントの補充

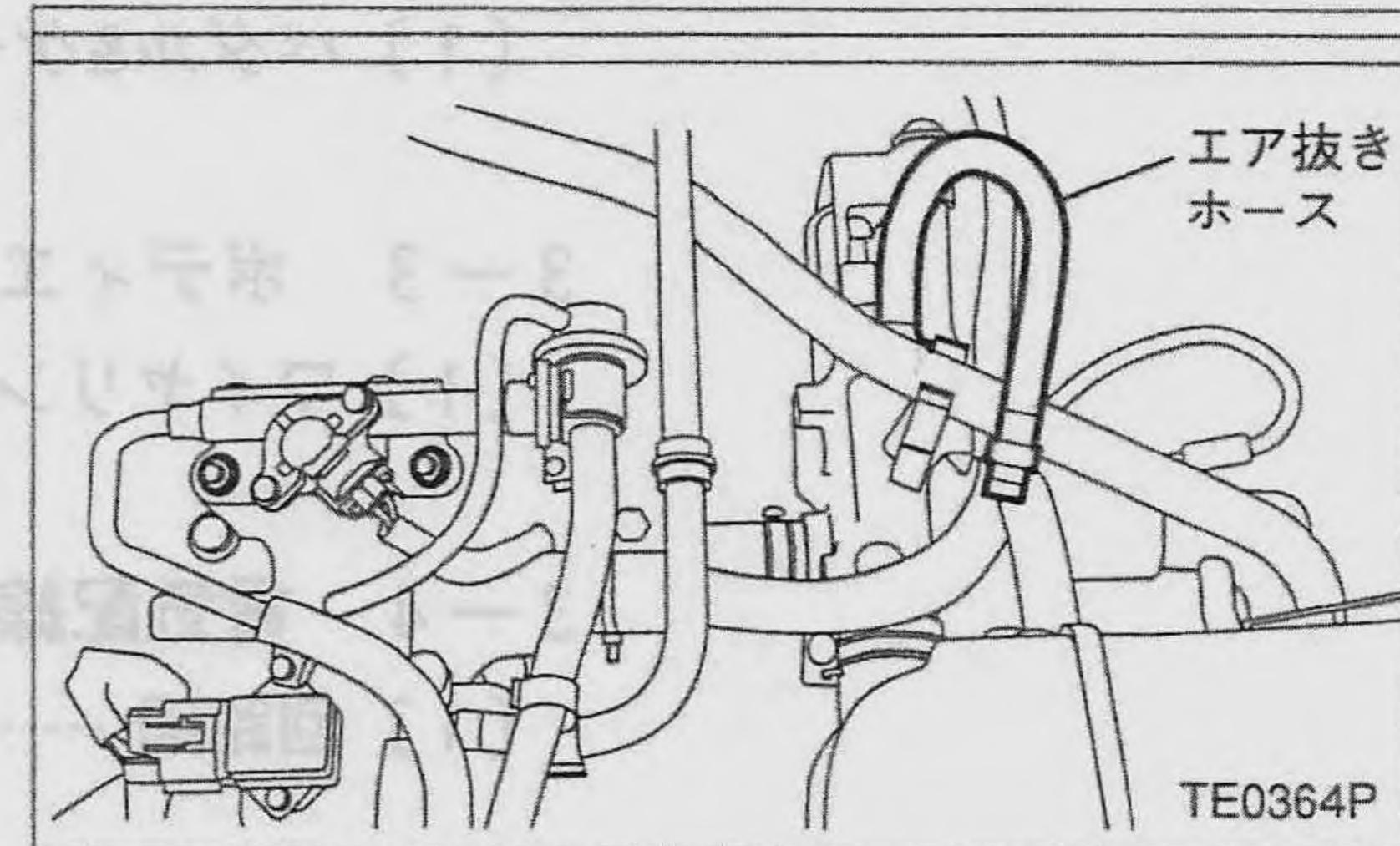
## 整備要領

## (1) 冷却水

- リザーブタンクのキャップを外し、レベルゲージのクーラントをウエス等で一度拭取る。
- レベルゲージキャップを組付ける。
- ゲージの目盛りのFULLとLOWの間にクーラントがあるかどうかを確認する。



## &lt;エンジン上部 (NA車) &gt;



## 注意

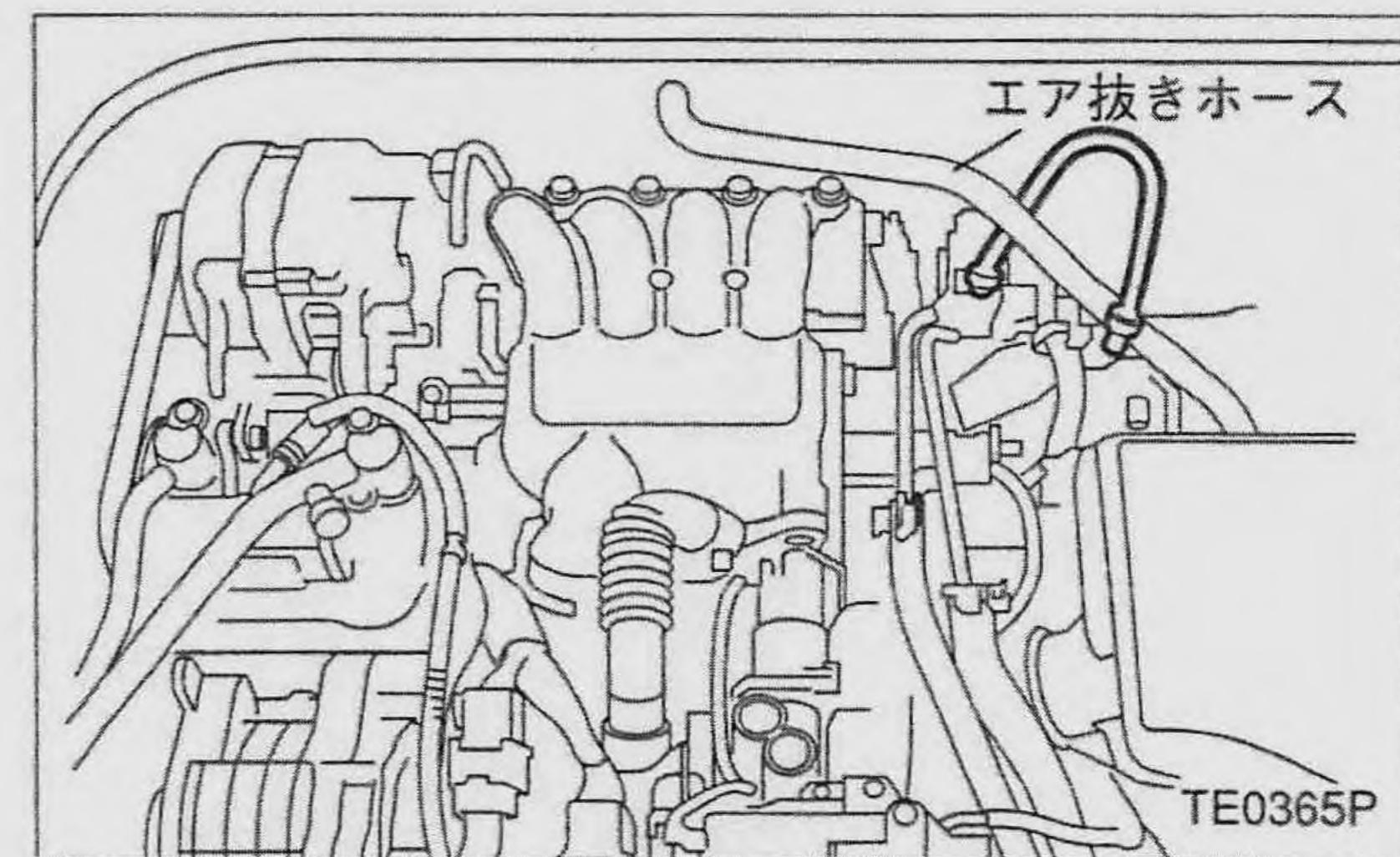
冷却水量の点検は、車両が水平になる場所にて行う。

## &lt;注水要領&gt;

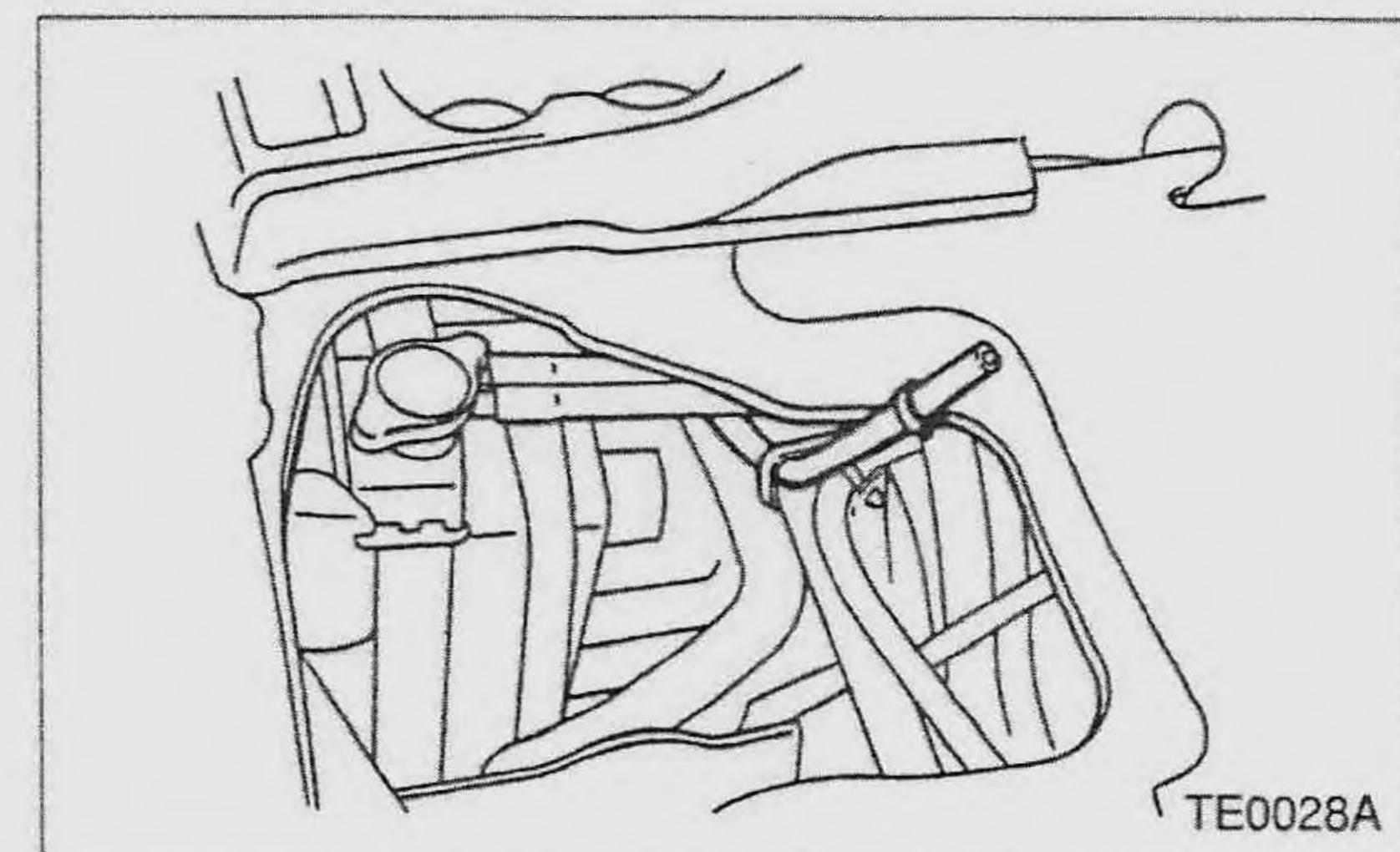
- 車両を水平な場所に置く。
- エア抜きホース（エンジン上部、ラジエーター後方部、フロントヒーター部3箇所）を外し、STホースを装着し、ホース端部をラジエーター注水口より高い位置に固定する。

**S T** 45099TC000 エア抜き用STホース

## &lt;エンジン上部 (SC-5MT車) &gt;



## &lt;ラジエーター後方&gt;

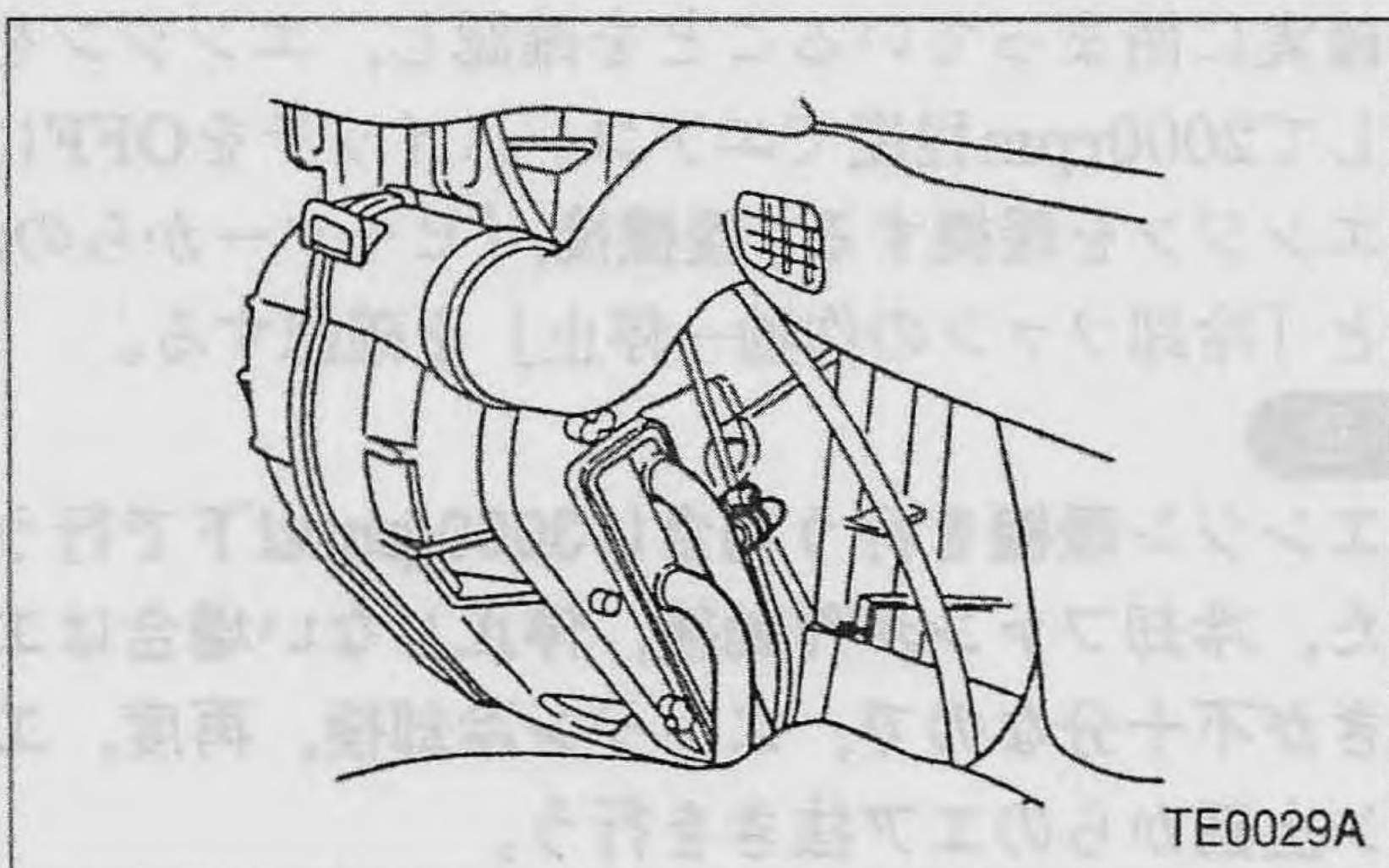


## 注意

各エア抜きホースの端部がラジエーター注水口より低いと、ラジエーターキャップを開いた際に、冷却水が漏れてくるので注意する。

# エンジン

<フロントヒーター右側>

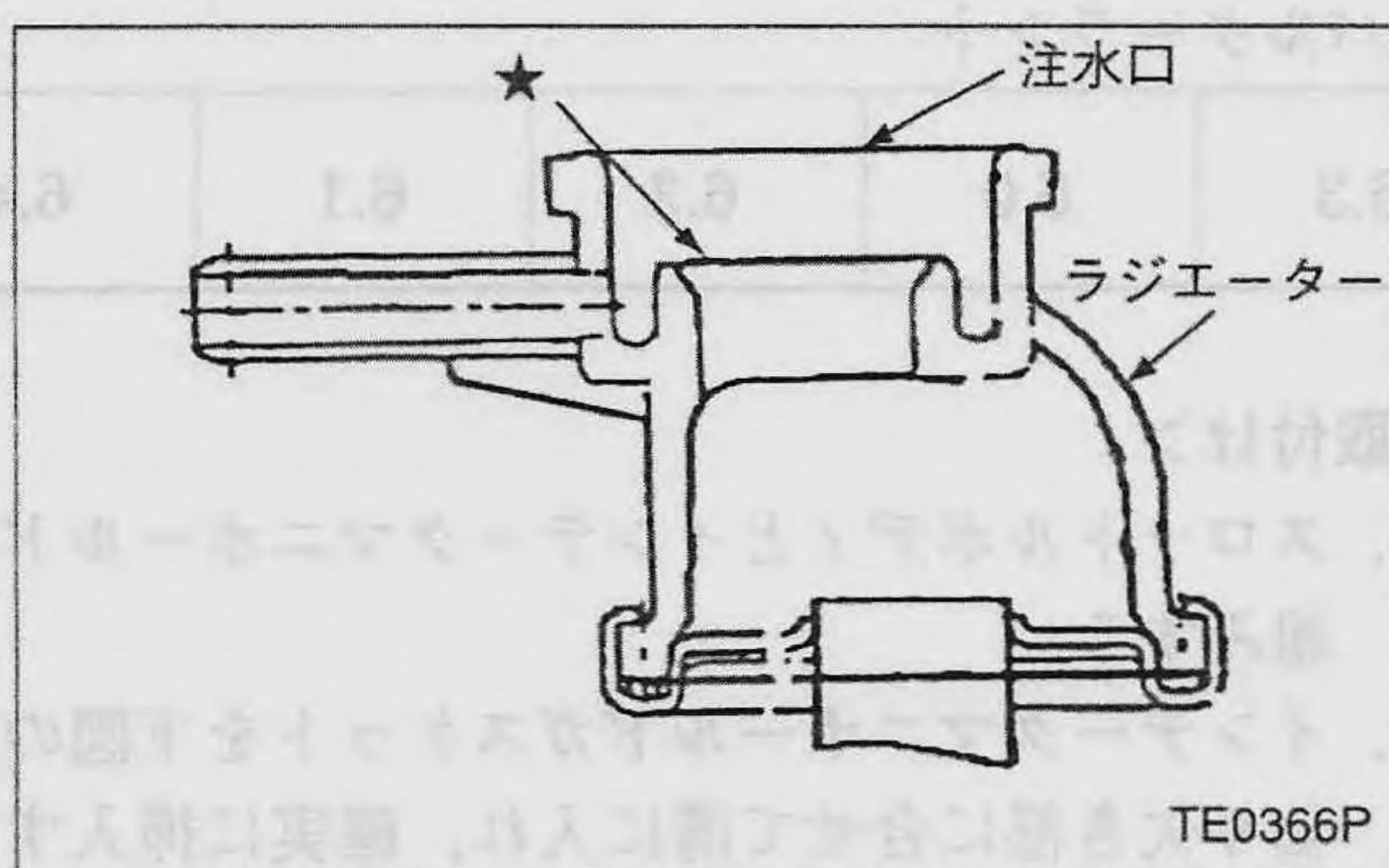


- ラジエーターキャップを外し、ジョッキなどで注水口から冷却水が満水になるまで注水する。

<エア抜き要領>

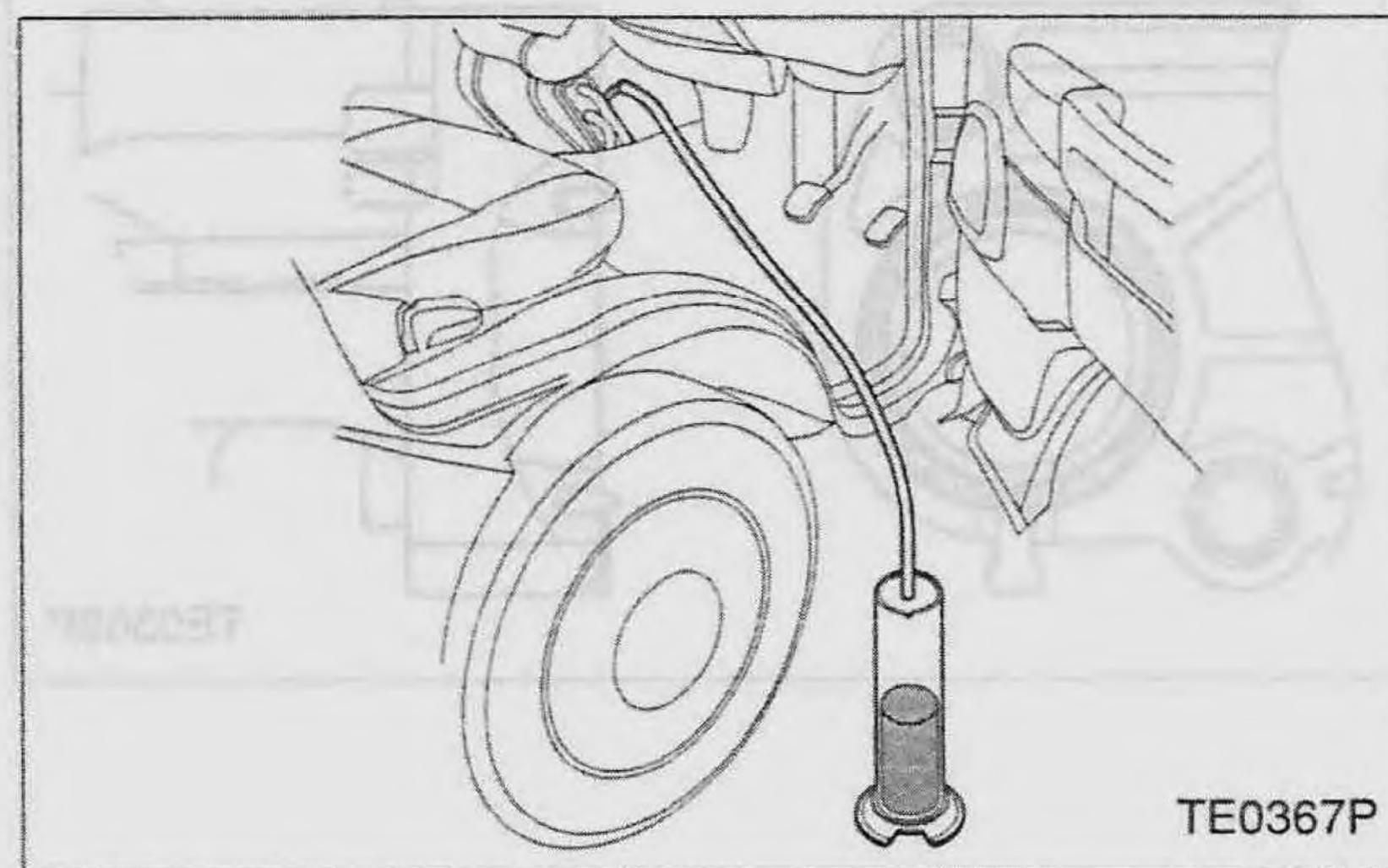
## 注意

- エア抜き作業は、フロントヒーター部→ラジエーター後方部→エンジン上部の順で行う。
- エア抜き作業中は、常にラジエーター内の液量に注意し、液面は常に下図(★)を維持する。



★：注入ライン（保持ライン）

- フロントヒーター部からのエア抜き
  - エア抜き用STホースをラジエーター注水口より下に向け、受皿に受けながらエア抜きをする。



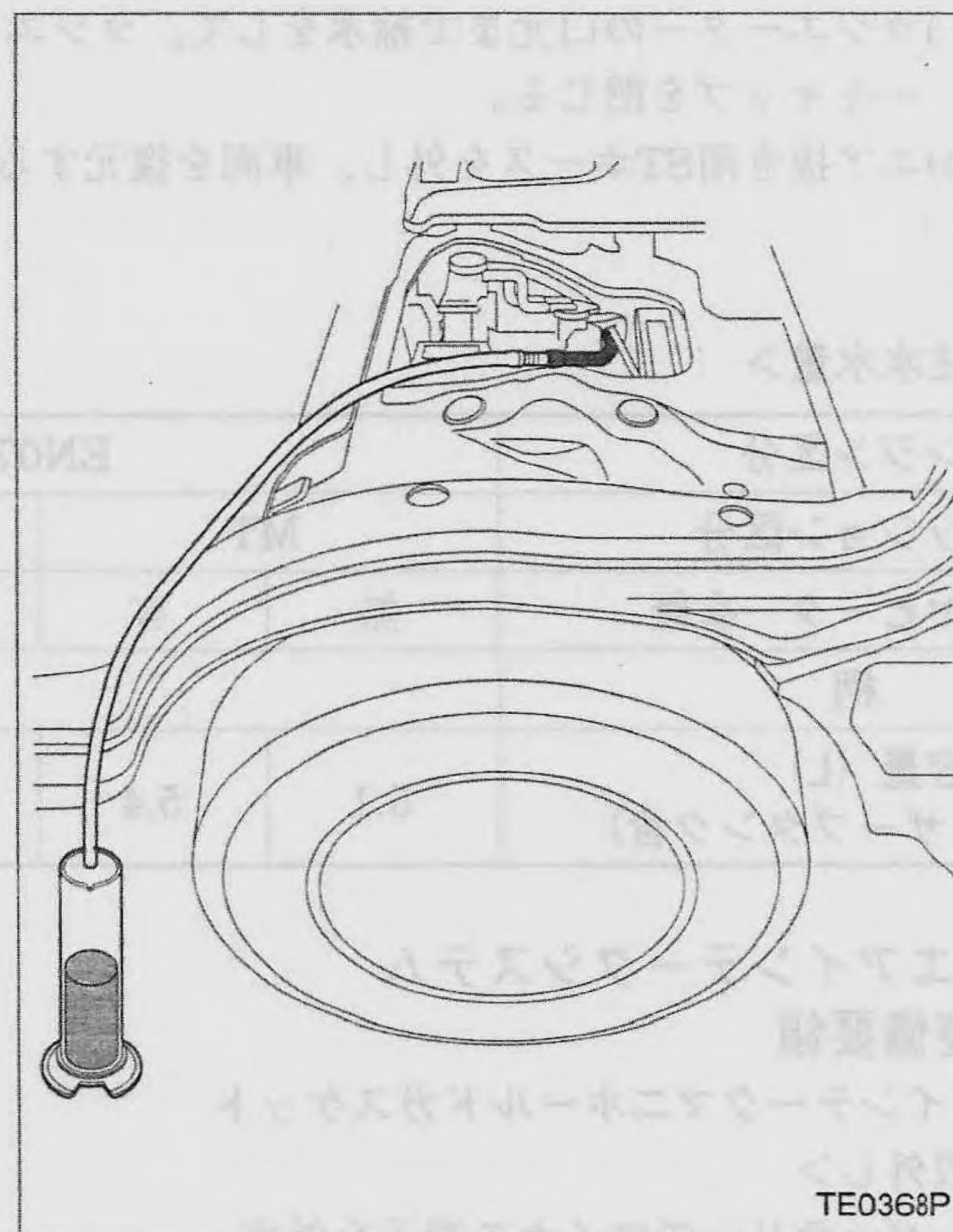
- ラジエーターの液面が下がってきたら、その分補水をする。

- エア抜き用STホースからエアが出なくなったところで、エア抜き用STホースを外し、ヒータークーラントを装着する。

※ジョッキ注水の場合、ヒーターのエア抜きからクーラントは出ません。(注水口よりも高いため)

- ラジエーター後方部からのエア抜き

- エア抜き用STホースをラジエーター注水口より下に引き出し受皿に受けながらエア抜きをする。



- ラジエーターの液面が下がってきたら、その分補水をする。

- エアが出ない状態が10秒程度連続したらエア抜き用STホースを外して栓をする。

- エンジン上部からのエア抜き

- エア抜き用STホースをラジエーター注水口より下に引き出し、受皿に受けながらエア抜きする。

- ラジエーターの液面が下がってきたら、その分補水をする。

- エアが出ない状態が10秒程度連続したらエア抜き用STホースの先端に栓をする。

- ラジエーターキャップを装着し、エンジンを始動して、アイドリング回転で1分程度運転し、冷却回路内のエアをエンジン上部に集める。

## エンジン

5) エンジンを停止し、3)で仮止めした栓を外し、ラジエーターキャップが熱くないことを確認して、キャップを開ける。

### 注意

冷却水が溢れがあるので注意する。

7) ラジエーターの液面を確認し、下がっていれば補水する。

8) 上記1), 2)の作業を行ない、エンジン上部のエア抜きを行う。

### 注意

温水がホースから出ることがあるので注意する。

9) ラジエーターの口元まで補水をして、ラジエーターキャップを閉じる。

10) エア抜き用STホースを外し、車両を復元する。

### <確認作業>

エア抜き用STホースの栓とラジエーターキャップが確実に閉まっていることを確認し、エンジンを始動して2000rpm程度でエアコンスイッチをOFFにしてエンジンを暖機する。暖機後、「ヒーターからの温風」と「冷却ファンの作動→停止」を確認する。

### 注意

エンジン暖機を行う場合は3000rpm以下で行う。また、冷却ファンが作動後、停止しない場合はエア抜きが不十分なので、エンジン冷却後、再度、エンジン上部からのエア抜きを行う。

### <注水量>

エンジン区分	EN07V				EN07Y			
	MT		AT		MT		AT	
ミッション区分	無	有	無	有	無	有	無	有
リヤヒーター有無	スバルクーラント							
銘柄								
全容量(L) (リザーブタンク含)	5.1	5.4	6.0	6.3	6.0	6.3	6.1	6.4

## [2] エアインテークシステム

### 整備要領

#### (1) インテークマニホールドガスケット

##### <取外し>

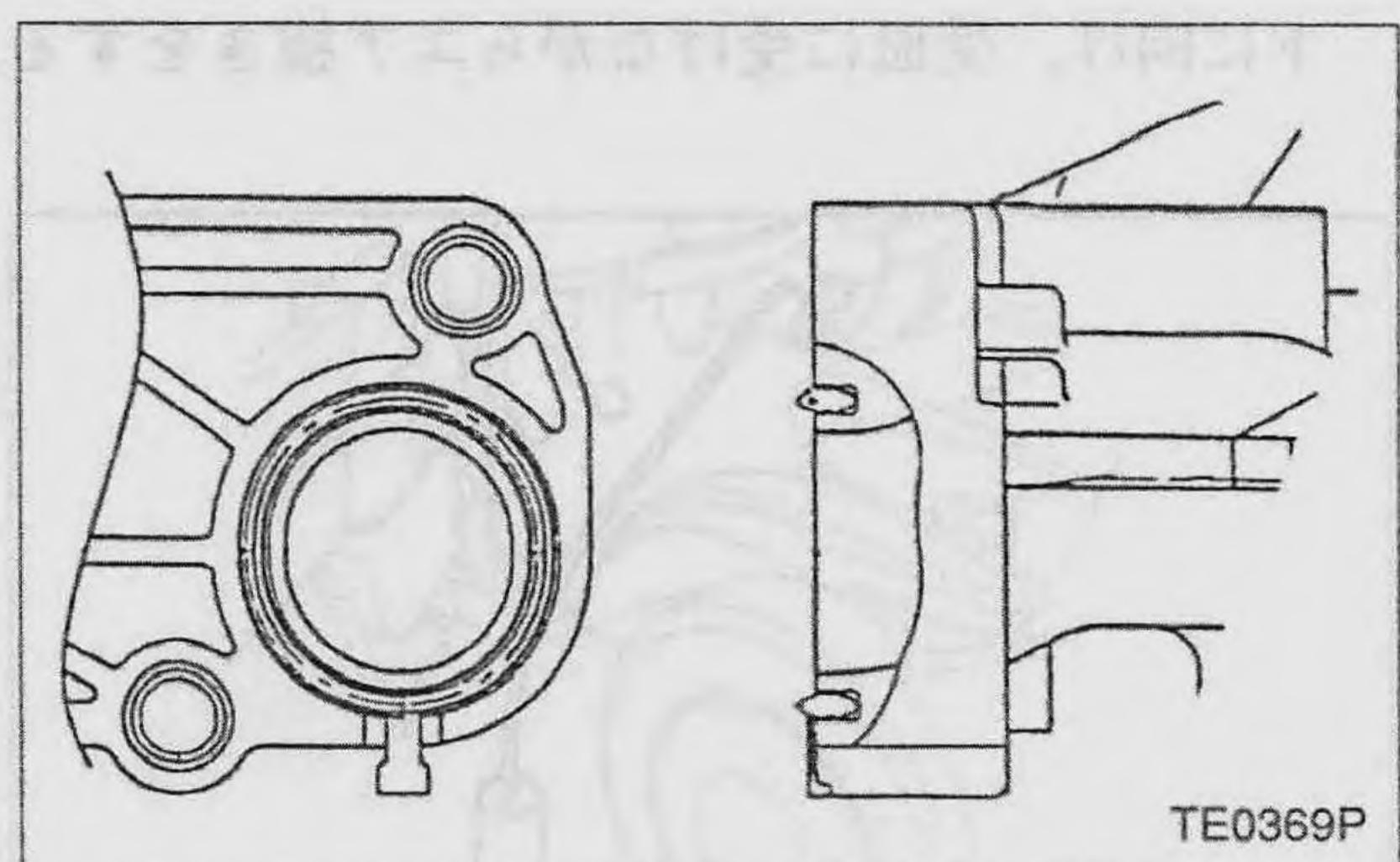
- バッテリーのマイナス端子を外す。
- 冷却水を抜く。
- 冷却水パイプを外す。
- 各ホース類のマーキングをし、取外す。
- スロットルボディを取り外す。
- エンジン本体とインテークマニホールドとの結合ボルト・ナットを外し、マニホールドを取り外す。
- インテークマニホールドガスケットを取り外す。

### <取付け>

- スロットルボディとインテークマニホールドを仮組みする。
- インテークマニホールドガスケットを下図の様に切り欠き部に合せて溝に入れ、確実に挿入する。

### 注意

インテークマニホールドガスケットには組付けの方向性があるので注意する。



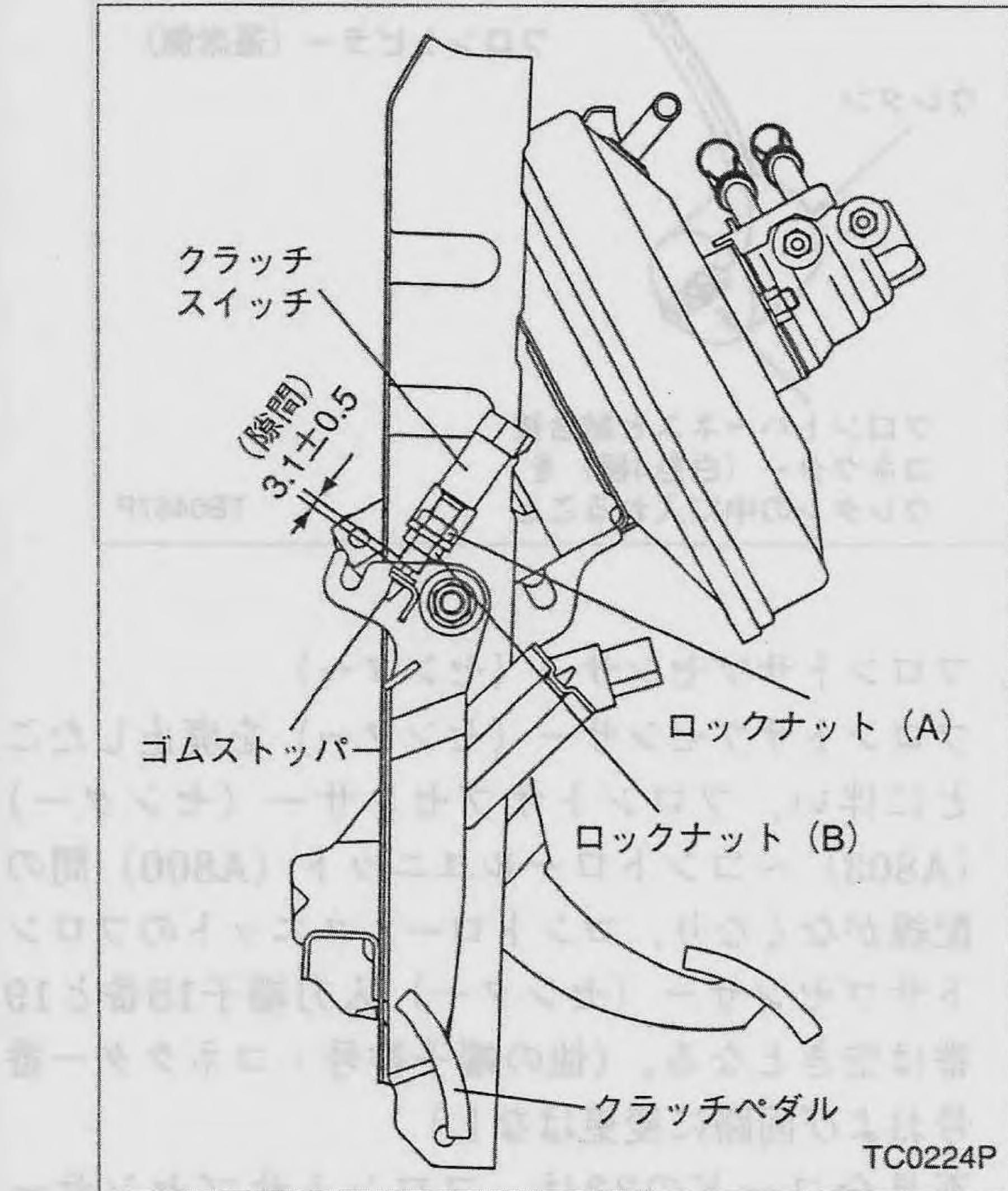
## [1] ペダル&amp;ケーブルシステム

## (1) クラッチスイッチ作動確認

1. クラッチペダルを踏まないとき、エンジンが始動しないことを確認する。
2. クラッチペダルをいっぱいに踏み込んだとき、エンジンが始動することを確認する。
3. 上記の確認で異常のある場合は、クラッチスイッチのON/OFFを点検する。

## (2) クラッチスイッチの調整

1. クラッチスイッチのロックナット (A), (B) を緩め、クラッチペダルをいっぱいに踏み込み、クラッチスイッチねじ部先端とクラッチペダルゴムストッパーとの隙間が $3.1 \pm 0.5\text{mm}$ になるように調整する。



2. クラッチスイッチを1.の状態でロックナット(A)により固定する。

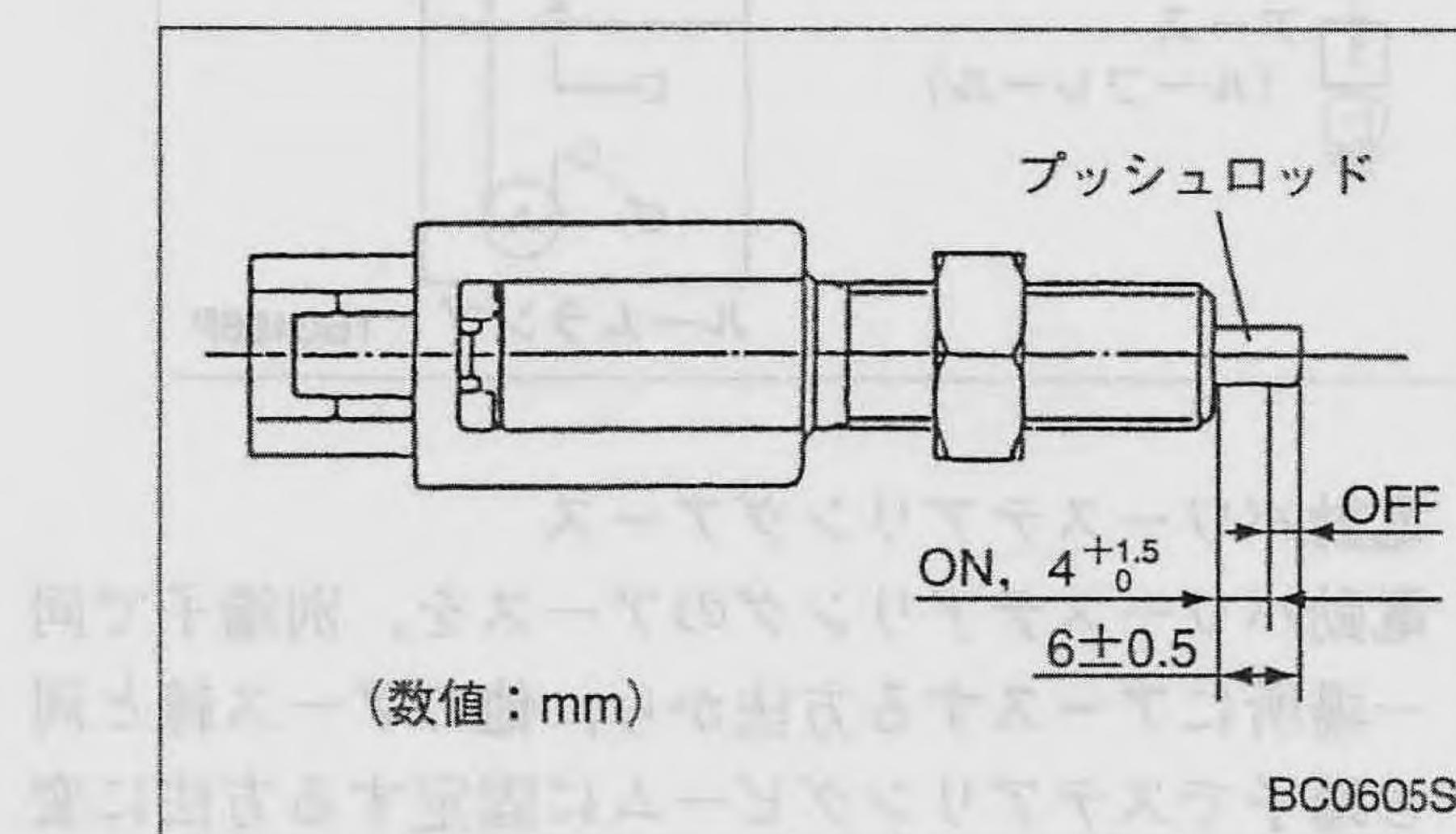
T  $8 \pm 2\text{N}\cdot\text{m}$  { $0.8 \pm 0.2\text{kgf}\cdot\text{m}$ }

3. クラッチペダルの遊びおよびクラッチスイッチの作動を確認する。

## (3) クラッチスイッチ点検

1. クラッチスイッチのプッシュロッドがスムーズに作動するか点検する。
2. クラッチスイッチのON/OFF点検  
コネクター端子にサーティットテスターを接続し、ON/OFFしたときの導通を点検する。

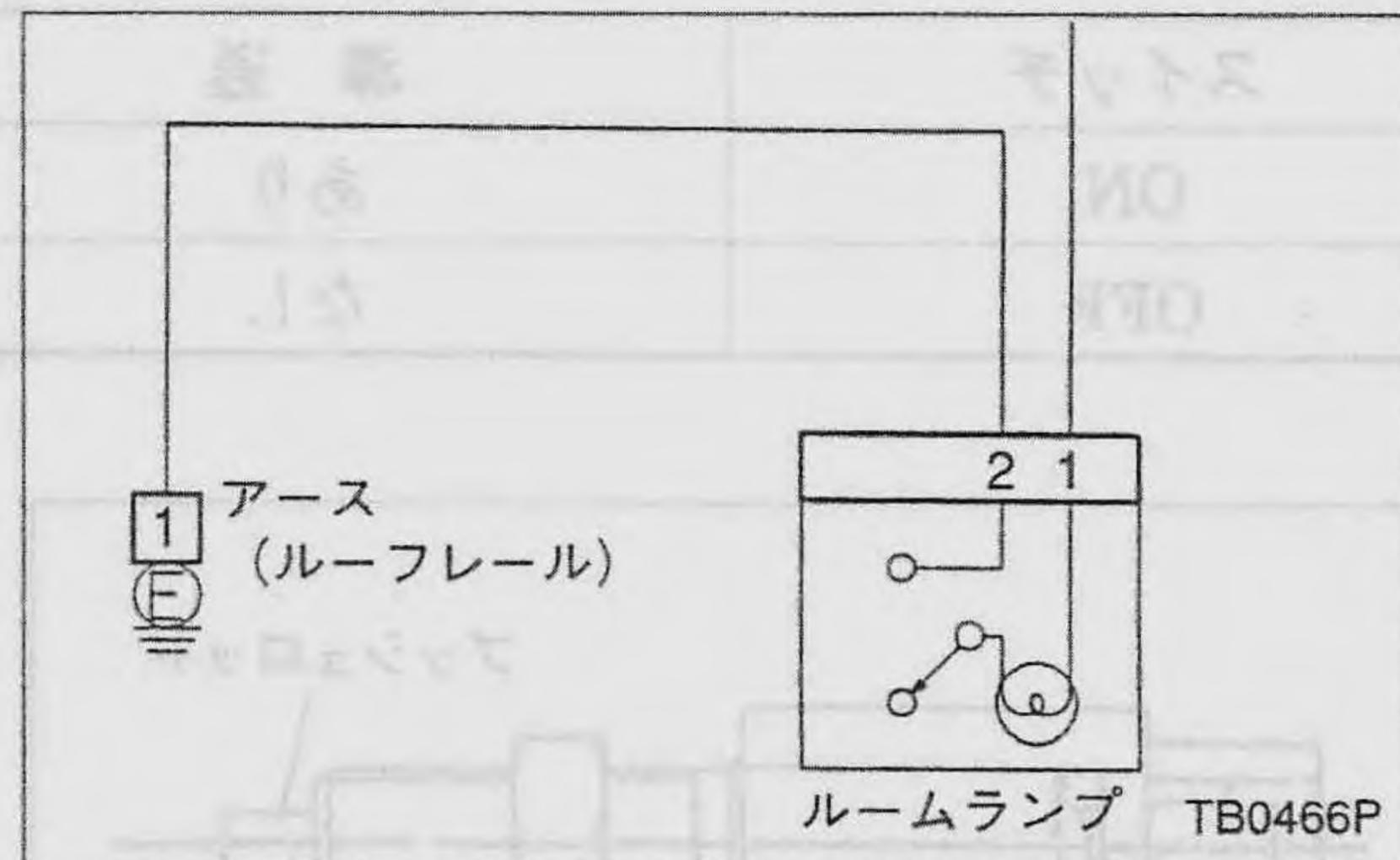
スイッチ	導通
ON	あり
OFF	なし



3. ゴムストッパーの損傷を点検する。

**[1] ワイヤリングハーネス****整備要領****(1) アース****1. ルームランプアース**

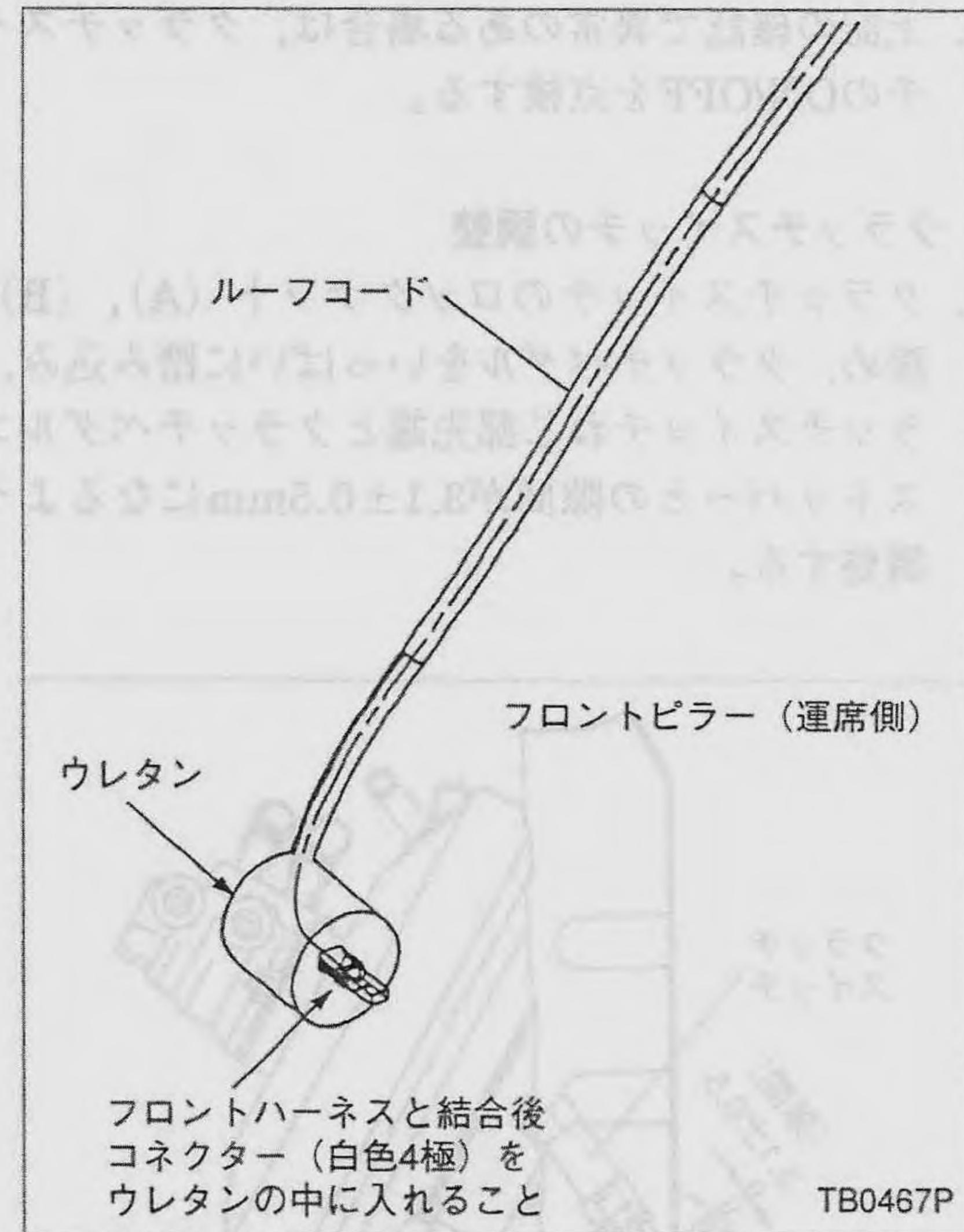
ルームランプのアース位置を、室内から、フロントルーフレールに変更した。(タッピングビス止め)

**2. 電動パワーステアリングアース**

電動パワーステアリングのアースを、別端子で同一場所にアースする方法から、他のアース線と同じ端子でステアリングビームに固定する方法に変更した。

**(2) コネクター****1. ルーフコードコネクター**

雑音対策のため、ルーフコードとフロントハーネスの結合コネクター（白色4極）を結合後、ウレタンの中に入れること。

**2. フロントサブセンサー (センター)**

フロントサブセンサー (センター) を廃止したことにより、フロントサブセンサー (センター) (A803) ~コントロールユニット (A800) 間の配線がなくなり、コントロールユニットのフロントサブセンサー (センター) 入力端子18番と19番は空きとなる。(他の端子番号・コネクター番号および回路に変更はなし)

不具合コードの33は、フロントサブセンサー (センター) の廃止によりなくなる。